

- ヒロシマ平和の灯のつどい (報告) . . . 1~3
- 広島市議会「女性議員との懇談会」、「女性に対する暴力をなくす運動」街頭キャンペーン (報告) . . . 3~4
- 広島市女性団体連絡会議 2024 年度役員・ひろしま WENET からのお知らせ 4

第26回「ヒロシマ平和の灯のつどい」(報告) 2024年7月31日



尺八演奏者の江角昇山さん、雅ぼうぼう核山さんによる「平和の山河」が流れる中、第27代高校生平和大使の甲斐なつきさん、佃和佳奈さん、沖本晃朔さん、ノルウエー派遣高校生平和大使の野田優祥(ゆうあ)さんや東京都国分寺市の中学生が、「平和の灯」から採った灯を参加者が持つろうそくに分火しました。その後参加者は平和への願いを込めて「原爆を許すまじ」を高らかに歌い、日が沈み辺りが神聖な雰囲気の中、網本えり子さんによる「原爆詩」の朗読がありました。

被爆79年目を迎えた今年、ろうそくに火をともし、原爆犠牲者の慰霊、核兵器の廃絶、世界恒久平和の実現を願い平和記念公園の原爆死没者慰霊碑の周りを行進する第26回「ヒロシマ平和の灯のつどい」をひろしまWENETと広島市の共催で7月31日(水)に開催しました。

その余韻を胸に参加者はろうそくを手に原爆死没者慰霊碑を中心に、東西二手に分かれて静かに行進しました。行進の間ずっとカザフスタン被曝者への鎮魂歌「ザマナイ」が山下京子さんのアカペラで会場に響いていました。美しい歌声とともに行進しながらこの雰囲気は平和であってこそ体験できるもの!と心に刻みました。

私たちの核廃絶の願いにもかかわらず、世界には地球を何度も破壊できるほどの核兵器が存在し、その使用をちらつかせながらの紛争が続いている今、その願いを持つ人々は多く、当日は市民や国内外からの観光客たち150人が参加しました。

分火後の挨拶で高校生平和大使沖本晃朔さんが述べた「核兵器が戦争を止められないのは明白。核の脅威が人類からなくなる日まで訴える」の言葉には、特に勇気を与えられ、希望を感じこのつどいを継承し続ける事の大切さを確認しました。(書記:宮田保江)

第一部は、4歳の時に被爆された近藤康子さんのお話を、広島平和記念資料館地下1階メモリアルホールで聞きました。戦時下では市民の生活までこんなにも酷く惨めな状況になる事を再確認するお話に胸が痛み、特に高校生平和大使等の若い参加者には衝撃的だったようです。



その後、平和記念公園の原爆死没者慰霊碑前に場所を移し、午後7時から第二部がスタートしました。広島平和文化センター森川伸江常務理事のご挨拶の後

【被爆者の証言を聞く会】

近藤康子さん

爆心地から 3.5km の疎開先、古田町(現:広島市
西区高須)で被爆



近藤康子さんは 1940(昭和 15)年生まれ。4 歳の時に被爆しました。2001(平成 13)年から「ヒロシマピースボランティア」として活動をはじめ、2015(平成 27)年からは「被爆体験証言者」として修学旅行生たちに体験を伝えています。

「戦争が激しくなると、ナベや釜、制服のボタンまで金属でできたものはすべて供出し、兵器になったんですよ。当時、私たちは空襲の危険を避けて、田中町の自宅から古田町に疎開していました。1945(昭和 20)年 8 月 6 日、あの日は母が配給所に行くのに付いて行き、配給所のそばの小川で友達と水遊びをしていました。8 時 15 分にもものすごい光と音がして、何が

起こったのかもわからず、体を伏せました。すぐ母がまだ 1 歳にもならない妹を抱えて配給所から飛び出してきて、一緒に防空壕に向かって走りました。

その途中、妹は目を見開き、口をもぐもぐさせているのに気づいた母は、妹の口の中に手を突っ込みました。するとガラスの破片が 4 つも出てきて、妹の口も母の手も血だらけでした。その光景は今でもありありと目に浮かびます。

翌日は朝から田中町の自宅(爆心地から 800m)を確認しようと母子 3 人で出かけ、辺り一面焼け野原の街を歩き回りました。家はすっかり焼けてしまっていました。

12 日ごろから母の実家のある呉で暮らし始めましたが、1 カ月もの間、妹も私も高熱と下痢が続きました。ひどい下痢に肛門から腸が飛び出しました。母は、温かい蒸しタオルで飛び出した腸を押し込んでくれましたが、その時の痛さは今も忘れられません。ハイハイする妹のあとには血便のため血の筋がついていました。頭にもいっぱい吹き出物ができましたが、ドクダミ草が効くと聞いたので、干して煎じてドクダミ茶を飲みました。

その後、幟町小学校から国泰寺中学校、観音高校へと進み、助け合ってがんばりました。今こうしてなんの気兼ねもなく暮らせる毎日があるのも、みんなが力を合わせて助け合ったからだと思います」

その語り口は穏やかですが、分かりやすい表現で的確な被爆証言は私たちの心に静かに沁みていきました。(学習部:平木久恵)

【第 27 代 高校生平和大使】

AICJ 高等学校 2 年沖本晃朔さん

今日はこの場を借りて僕の核兵器廃絶への思いを述べたいと思います。「核兵器は、それが存在する限りにおいて、防衛目的のために役割を果たす」昨年の G7 広島サミットで我が国の首相が発表した『広島ビジョン』には、このような核抑止を肯定する記述が含められていました。僕は、世界で唯一の被爆国である日本がこのような姿勢をとることに反対です。2 年前のウクライナ侵攻では、抑止力の名の下に存在していた核兵器が戦争を止められないことが明白になりました。国際情勢が安定しない現在だからこそ、核兵器廃絶の必要性を強く感じます。



高校生平和大使という1番の活動は、ジュネーブ国連ジュネーブ事務局への訪問、研修ですが、僕はそれと同じくらい日本国内の運動も必要だと思っています。唯一の被爆国である日本が核兵器禁止条約に参加なのは、世論の弱さもあると思うからです。近年では自衛隊のあり方や憲法9条の改正が世に上がっている中、多くの若者はそこへの関心が薄いのも事実です。国内での活動にも力を入れていきたいです。もちろん、世界をターゲットにした活動も忘れてはいけません。

ここ平和記念公園にある原爆死没者慰霊碑には、「安らかに眠って下さい。過ちは繰返させぬから」という文言が刻まれています。私は「過ちを繰り返さない」の主語は人類全体だと思います。核兵器廃絶は、人類全員が共有すべき目標です。核なき世界は、世界中の人が望む未来です。私たちは全ての人が核の脅威から解放される日まで、この思いを世界へ訴え続けていきます。



「女性に対する暴力をなくす運動」街頭キャンペーン(報告)



話してもいいのかな

自分が悪いと思っていた。
誰にも相談できなかった。
でも話してみたらこころが少し軽くなった気がした。

DVや性暴力の悩み、
受け止めてくれる人がきつという。

聞かせてほしいな

話したいけど聞かされてくれなくてどう。
あなたは聞きたくないよ。
これからのもう一種にきえよう。

「被害を受けたあなたは悪くありません。一人で苦しまないで！一歩踏み出してみませんか？」

毎年11月12日から25日までは「女性に対する暴力をなくす運動」期間です。11月12日(火)と25日(月)に紙屋町交差点と八丁堀交差点周辺で「配偶者、パートナーからの暴力(ドメスティック・バイオレンス)で悩んでいませんか?」と記載したカードを添えたポケットティッシュを広島市、国際ソロプチミスト広島一中央、ひろしまWENETが共同して配り、広島市配偶者暴力相談支援センター等の相談窓口をお知らせしました。

ネット等で情報を知る昨今ですが、約4人に1人が被害を受けている今日、ドメスティック・バイオレンスをいろんな世代の方々に知っていただきたいと思います。(寄稿:好永)

広島市配偶者暴力相談支援センター

区分	電話	相談受付時間
女性相談員による相談	082-504-2412	月～金 (祝日・8月6日・年末年始を除く) 10:00～17:00
休日DV電話相談	082-252-5578	土・日・祝日・8月6日 (年末年始を除く) 10:00～17:00

**性被害
ワンストップセンター
ひろしま**

電話での相談は、24時間365日受付しています。

無料ダイヤル#8891

※NTTひかりから無料ダイヤルを利用の際は
0120-8891-77

広島市議会「女性議員との懇談会」(報告)



9月12日(木)、広島市議会女性議員とひろしまWENETの会員による懇談会を開催しました。女性議員は桑田恭子さん、豊島永子さん、中村孝江さん、清水貞子さん、門田佳子の5人、当会からは、14人が参加しました。最初にひろしまWENETの活動報告を行い、その後、各議員がこの1年間の活動を振り返りました。

超党派の広島県女性議員有志によるイスラエル・パレスチナ問題の平和的解決を求める声明発出、子育て環境の改善、生理の貧困への施策、災害に強いまちづくり、墓問題、ひとり住まいの方への施策、ジェンダー平等実現への働きかけなど、多岐にわたる議員活動でした。会員からは、構造的な女性の貧困問題への対応、非正規職員の実態調査実施、DV被害者支援環境の拡充、市のまちづくりに関する意見などを伝えました。短い時間ではありましたが、双方、活発に意見を交換し、濃密な交流の時間となりました。(広報部：門田佳子)

広島市女性団体連絡会議 2024 年度役員

役職名	氏名	団体名
会長	貴田 月美	I女性会議広島支部
副会長	平木 久恵	2000+17・平和
副会長	山本 紀子	水曜茶論
書記	藤永 雅子	広島市未来を考える女性の会
書記	宮田 保江	安芸コスモスゾントクラブ
会計	森 政美	水曜茶論
会計	土居 絹子	安芸コスモスゾントクラブ
学習部会長	西村 宏子	2000+17・平和
啓発部会長	中嶋 典子	Human & Network 宙(そら)
広報部会長	門田 佳子	女性議員を増やす会
監事	富川 久子	I女性会議広島支部
監事	中島 典子	国際ソロプチミスト広島

新規加入団体活動紹介 「女性議員を増やす会」

2024年の日本のジェンダーギャップ指数は146カ国中118位で、依然として低い順位にとどまっており、特に女性の政治参画が課題です。

「女性議員を増やす会」は、議員をめざす女性たちを後援することで、民主政治の発展とジェンダー平等、人々の生活の向上を目指しています。会員の資質向上のための勉強会などの活動を行っています。

広島市女性団体連絡会議(ひろしまWENET)からのお知らせ

ひろしまWENET2025 男女共同参画セミナー

日時:2025年2月22日(土)13時30分~16時

場所:JMSアステールプラザ4F大会議室A・B

テーマ:変わる家族、進む多様性を考える

<第1部>

講演:セクシャル・マイノリティの選択~家族の現状

講師:広島修道大学人文学部教授 河口和也さん

<第2部>対談

同性のカップルを迎え、お二人の家族の選択についてうかがいます。

参加費:無料 どなたでも参加できます。

2025国際女性デーひろしま

日時:2025年3月9日(日)13時~15時30分

場所:合人社ウエンディひと・まちプラザ(予定)

テーマ:「虎に翼」とジェンダー平等

講師:寺西弁護士

WENET ニュース第58号 2024年11月発行

発行者 広島市女性団体連絡会議

(広島市市民局人権啓発部男女共同参画課気付)

責任者 貴田月美